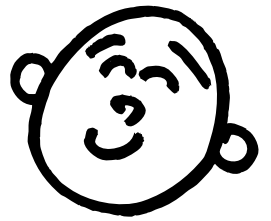


たかやんの市議会報告



新座市市議会議員 たかむらともや 総務常任委員 語る会]
ホームページ <http://www.takayan-world.com/cheeringparty/>

2007年 6月発行

市民の痛み

この6月議会をはじめとする各意見書に対する賛否

名前	国保	乳幼児	年金	医師	共育	陳情	定率減税
嶋野加代	×					×	×
森田輝雄	×					×	×
小池秀夫	×					×	×
尾崎吉明	×					×	×
小系正文	×					×	×
平野 茂	×					×	×
小川 清	×					×	×
中田 勇	×					×	×
高邑朋矢							
田中幸弘						×	×
羽根善保						×	×
加藤文保						×	×
平松大佑						×	×
星川一恵							
三村邦夫	×					×	×
並木 傑							×
並木平八	×					×	×
古沢 隆	×	×	×			×	×
小鹿伸衛							
保坂フミ子							
笠原 進							
石島陽子							
川上政則	×	×	×			×	×
白井忠雄	×	×	×			×	×
亀田博子	×	×	×			×	×
北村由江	×	×	×			×	×
細田 健	×	×	×			×	×
滝本恭雪	×	×	×			×	×

この表は市民の生活に直結する意見書・陳情に対する各議員の賛否状況です。市民の痛みを感じている議員とそうでない議員の差は大きい。定率減税が廃止になり結果的に大增税になりましたが、2005年の12月議会の意見書で「定率減税廃止」に反対した議員はこの表の一番右側の 印の議員だけです。×印の議員はこの大增税に賛成したということになります。この6月の住民税の通知を見て、私もびっくり仰天しました。こういう時こそ、政治が市民の方を向き、弱者を救済する施策が必要だと私は思います。

意見書と陳情の説明

6月議会に提出された意見書は、全部で5つ。左の表の左から5つです。まず保坂フミ子議員提出の「国民健康保険への国庫負担率を引き上げること」を求める意見書」が自民・公明の反対で不採択に。次に石島陽子議員提出の「乳幼児医療無料制度の創設を求める意見書」が採択され、朝賀英義議員提出の「消えた年金問題を国の責任で解決することを求める意見書」が採択。小池秀夫議員（自民）の「医師、看護師等の早急な増員を求める意見書」が採択。そして私（語る会）が提出した「共に育ち学ぶための環境整備を求める意見書」が全会一致で採択されました。陳情は今年の3月議会に提出された「新座市公民館・コミュニティセンター等社会教育施設に関する陳情書」です。高齢化社会が進み、市民は公民館、コセン等の無料化を求めています。元々無料が原則なのですから、それですべて活動してきたサークルからすれば当たり前のことです。公民館などは無料にして、市民の社会教育活動を支えるのは当然のことですが、その陳情に賛成したのはこの表の右から2番目の 印の議員だけです。財政難だからこそ、教育や福祉にお金をかけるべきなのです。財政難は市民の責任ではありません。勿論、一番の責任は市長にあります。必要のない「東久留米・志木線」などに53億もの税金をつぎ込むことに賛成し、財政難を作り出してきた議員たちの責任でもあるのです。定率減税廃止に反対したのは誰なのか。この大重税を作ってきたのは誰なのか。しっかりと目を開けて見て欲しいと思います。「住民税が住民苦税」になりました。黙っていたら、まだまだ搾り取られます。これからの選挙で「こんなのは嫌だ!」ということが大切です。

たかむらともや の連絡先

〒352-0033 新座市石神 3-19-32-106

自宅 042-456-8860

携帯 090-6497-5737